

学生参加型の学校PR活動の必要性について

前畑航平*

The Need for School PR Activities of Student Participation

Kohei MAEHATA

Abstract

Admission recently students, tend to embrace a sense of discomfort for the school. It is believed this may be due to the fact that they have not been able to fully understand that the school before enrolling. In this study, to investigate the cause of the discomfort of their, first, to make a conceptual diagram of a PR school activities. Then, I was to extract the problems of school PR activities. As a result, it was to be aware of the "need for school PR activities of student participation type" summarizes this.

Key words: School PR(public relations), student participation

1. はじめに

入学間もない学生の多くが、学校に対して、何らかの違和感を覚えているようである。彼らは、入学前に、学校案内資料を閲覧したり、オープンキャンパス等に参加したりすることで、学校の概要や特徴をある程度理解し、入学後の自身の学校生活を思い描いているようである。それにもかかわらず、やはり、違和感を覚えるようである。これは、現状の学校PR活動に不足する部分に起因するのではないかと考え、学生の抱く違和感を少しでも軽減するにはどのような事が必要なのかを念頭に置き考察することとした。

2. 研究概要

本研究では、入学後の本校学生が抱く違和感の原因を探るべく「学校PR活動の全容」を概念図化し、「現状における学校PR活動の課題点」の抽出を試みた。

3. 学校PR活動の全容についての考察

PR (public relations) という言葉についてであるが、これは各種辞書等によると、「ある組織が、自己に対する理解や協力を目的として、情報を伝播すること。」とあり、これを学校PR活動に当てはめると、「学校組織<ある組織>が、学校情報<情報>を、広報活動<伝播>すること。」と解釈することができる。

さらに、「学校組織」「学校情報」「広報活動」及び対象者である「一般市民」について、それぞれどのような事項が含まれているのか、以下のように考えた。

学校PR活動の各事項

学校組織 … 教員、職員、学生

学校情報 … ハード面 (設備等)、ソフト面 (運営等)、環境面、人間面 (教職員・学生等)

広報活動 … 校内 (見学会ほか)、校外 (中学校訪問ほか)、その他

一般市民 … 社会人、就学者（特に小中学生）、幼児、学校関係者

3. 1 学校PR活動の流れについて

図1に「学校PR活動の流れについて」を示す。

左側より順に、まず学校組織があり、学校組織が持っている学校情報を、広報活動により一般市民に周知しているという流れに沿って、図示している。

この図の左半分は、広報発信者（組織）と発信内容（情報）となっており、学校組織と学校情報双方には共通項として教職員のみならず、学生も含まれていることが分かる。これは、学校情報の発信者として学生も欠かせないことを示しているものと考えられる。

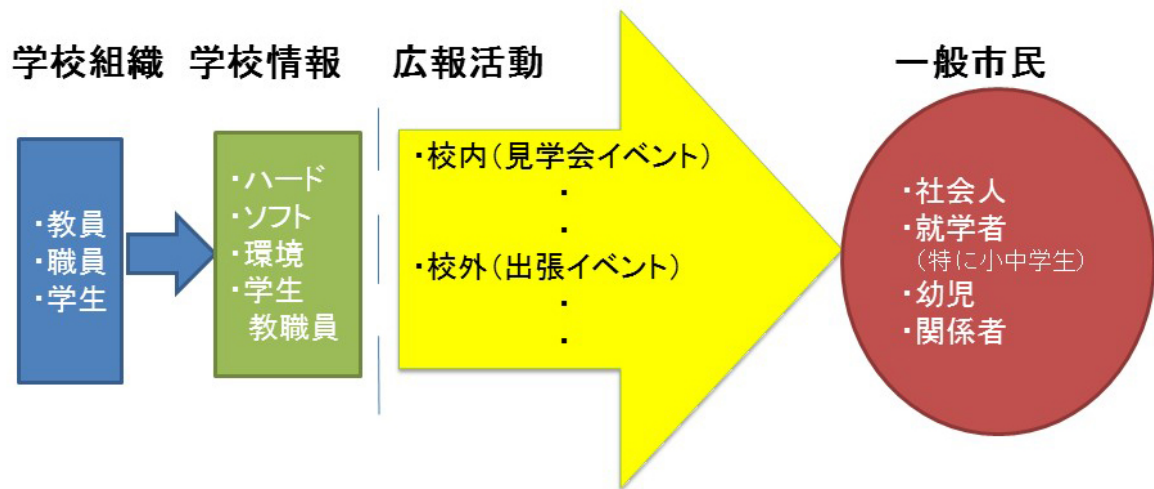


図1 学校PR活動の流れについて

3. 2 一般市民を中心に見た学校PR活動

図2に「一般市民を中心に見た学校PR活動」を示す。

外周には各種学校情報（ハード、ソフト、環境、人間）があり、それらを学校組織が有していることを示している。これらの学校情報は、広報活動を介して、図の中心に位置する一般市民に周知されることになる。このとき、広報活動の大きさや形状は常に一定ではなく、広報活動の規模や種類によって、一般市民は得られる情報に偏りがあるのが実情であると考えられる。この偏りの原因は次図3に示す。

ここで、学校情報の含まれる具体例として下記に挙げる。

- ハード面：学校校舎・実習設備など
- ソフト面：授業内容・学校行事など
- 環境面：立地、学生生活など
- 人間面：教員、職員、学生など

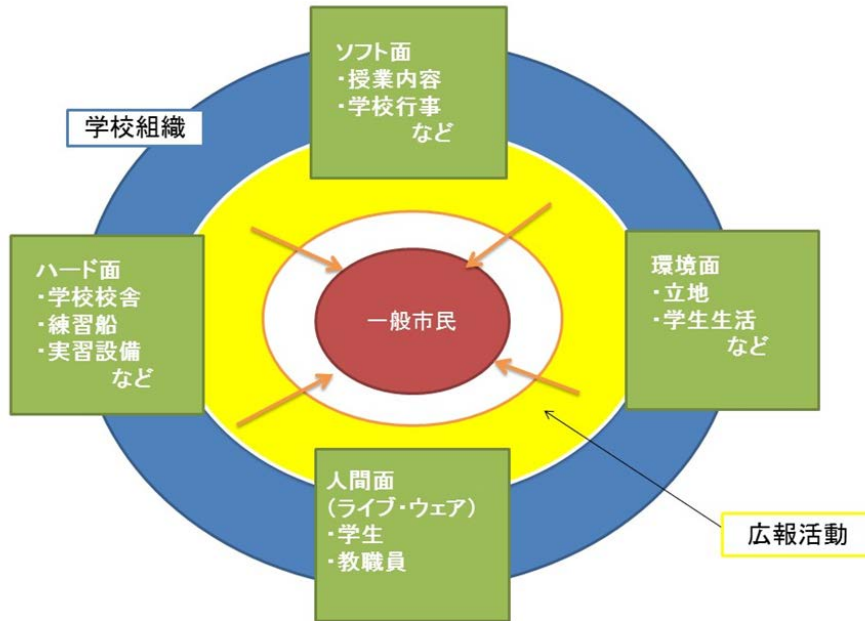


図2 一般市民を中心に見た学校PR活動

3.3 各立場の人がもつ学校情報について

図3に「各立場の人がもつ学校情報について」を示す。

図中左側に学校組織を構成する教員・職員・学生があり、各立場の人がもつ情報を円で表している。仮に3つの円の外周の範囲内全てを学校情報とすると、それぞれ教員が詳しい部分、職員が詳しい部分、学生が詳しい部分が存在する。

このことから、学生の方が詳しく知っている学校情報もあると考えられる。例えば、授業時間の合間の休憩時間の過ごし方、寮生活における些細なことなどがある。このような情報には、一般市民（特に中学生）が知りたがっているものが含まれている可能性がある。現在の学校PR活動のうち公式的なものは、教員及び職員が主体的に実施しているため、教員及び職員が詳しく知っている情報から順に一般市民へ広報されていると考察される。これにより、学生のもつ学校情報が、一般市民に伝え切れていない部分があると言える。図2における広報活動の偏りの可能性は、学生のもつ学校情報が一般市民へ届きにくい現状があるからではないかと考えられる。

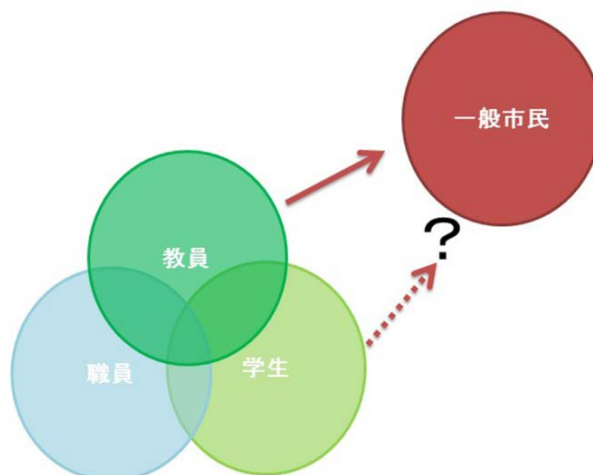


図3 各立場の人がもつ学校情報について

3. 4 学生もつ入学前と入学後の学校情報について

図4に「学生もつ入学前と入学後の学校情報について」を示す。

左右各図の中心の円は学生もつ情報で、四角で示した各学校情報（ハード面他）が各円の中心に入り込むほど、学生は学校情報を得て、学校についてより理解した状態と考えられる。

入学前の学生すなわち中学生時代には、学校PR活動を通して学校情報を得ることになるが、学校情報の内訳に相当するハード面・ソフト面・環境面・人間面は必ずしも結びついておらず、学校についてのイメージが部分的でしかないものと思われる。

入学後は、学生が身をもって体験することで、徐々にハード面・ソフト面・環境面・人間面の各学校情報が重なり結びつき始め、より具体的に学校のイメージを持てるようになって考えられる。具体的には、例えば、実習時に各種設備を前に教職員から授業を受けることで自分への向き不向き（あるいは良い点、悪い点）を知ることになると考えられる。

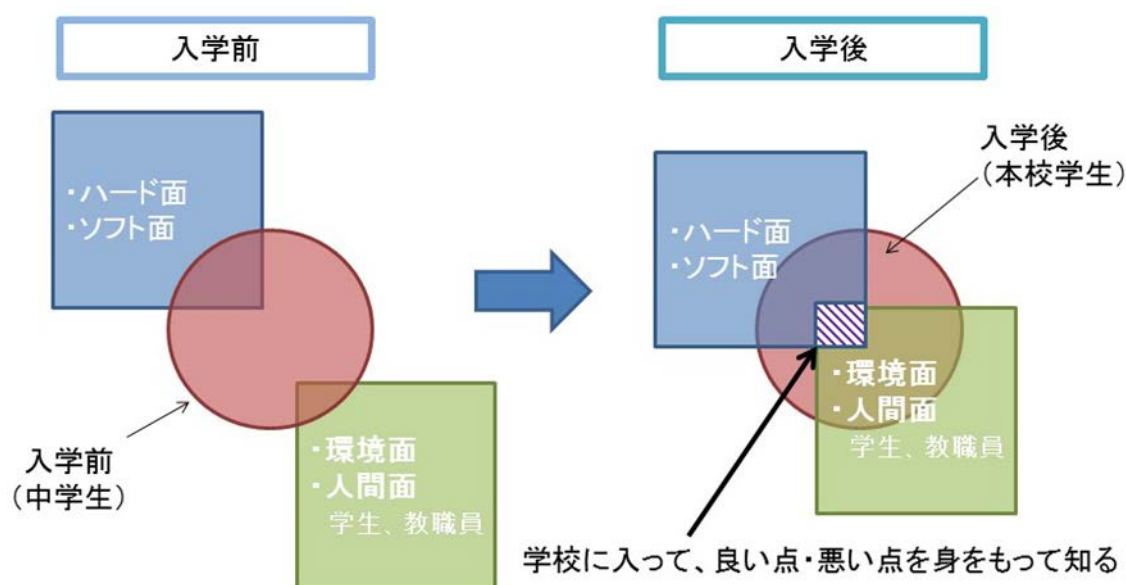


図4 学生もつ入学前と入学後の学校情報について

4. まとめ

本研究では、入学後の本校学生が抱く違和感の原因を探るべく「学校PR活動の全容を概念図化し、現状の学校PR活動の課題点の抽出を行った」結果、学生が違和感を抱くのは、入学前である中学生時代に得られた学校情報の不足にあると考えられた。不足する具体的な情報（詳細な項目）については、今後、アンケート調査等により得られるものとし、今回の研究では、なぜ違和感を抱く形で情報を得ているのか、課題点とすべく、学校PR活動の概念図から抽出し、以下の点を再確認すべきと考えた。

① 学生もつ学校情報の有用性

学生もつ学校情報には、一般市民、特に年齢の近い世代や受験を控えている中学生にとって、必要とされている（知りたいとされている）ものが含まれている可能性があり、学校PR活動においては有用となることありえること。

② 学生による広報活動の必要性

学生もつ有用な学校情報は、教員や職員のみでは外部へ伝え切れない可能性があり、より確実

に一般市民へ届けるには、学生による広報活動も必要であること。

以上のようなことから、入学後の学生が学校に違和感を抱く一因として、学校PR活動時における「学生のもつ学校情報」と「学生による広報活動」の活用不足が考えられた。これらの解決には、今後、より一層の『学生参加型の学校PR活動が必要』ではないかと考えられる。

5. おわりに

学生参加型の学校PR活動は、在学生にも有効なものではないかと考えられる。

現状では、教員及び職員が用意した学校PR活動（制作する関連資料を含む）へ、最終段階になって初めて学生が参加しているケースが多く見受けられる。このような現状では、「学生は学校の広報活動に無関心」になりがちで、そのため「学生のもつ学校情報が広報活動に生かされない」状況に陥りがちである。

学校PR活動の発信者側にも立つ学生に対して参画の機会を広げることで、学校の広報活動への参加を通じて、学校や学校生活に対して、自主的に興味関心を抱き続けるきっかけになるものと思われる。

今後、本校学生の卒業研究の機会などを活用し、学生の手によるPR資料の作成や広報活動への参加により得られた感想などを元に、学生参加型がもたらす効果と有用性について検証していきたい。

